

# フーパ

～（女性建築士の輪）～

奈良県建築士会 女性委員会  
2012年 冬号  
第69号



へっついさんで調理中  
(大和民族公園内)

---

---

## 目次

---

---

■ 女性委員会設立20周年イベント ～「へっついさん」で大和の食事を作ろう～	.....	上田 壽子	1ページ
	.....	相河 真弓	
	.....	中辻 千恵	
■ 私と建築	.....	石黒 國子	6ページ
■ 私と建築	.....	江木 博子	7ページ
■ 今後の事業予定	.....		8ページ

## 女性委員会設立20周年記念イベント

～「へっついさん」で大和の食事を作ろう～



去る11月13日、大変暖かく素晴らしい秋晴れの下、奈良県立大和民俗公園にて総勢63名の参加を得て、女性委員会設立20周年の記念イベントが行われました。

現在の台所の起源でありながら今はほとんど使われることのなくなったかまどで、奈良の食材をふんだんに使った食事を作り、それをみんなで味わいながら20周年をお祝いし、女性委員会の会員同士の親睦を図ろうという趣旨です。数カ月前から、女性委員によって準備のための勉強会や会議が何度も行われ、メニューや材料の準備などについて話し合いを重ねてきました。

当日は、大和民族公園という矢田丘陵のふもとにある大きな公園の中に建てられた、江戸時代の古民家の様式を今に伝え、重要文化財などにも指定されている鹿沼家と臼井家という向かい合った2棟を会場としてお借りしました。会場内には女性委員会のこれまでの活動の数々の懐かしい写真や資料なども展示され、とても興味深かったです。



朝9時過ぎから女性会員の皆さんが次々に集合されると会場のセッティングが始まるとともに、それぞれのかまどに火入れをし、それぞれの住宅での調理が始まりました。公園のスタッフの方たちにかまどの使い方や火加減のアドバイスをいただきながら、山のように用意されてあった材料がどんどん使われていき、普段使い慣れていないかまどと格闘しながらも、茶がゆや奈良のっぺ、柿なます、炊き込みご飯に鯖の味噌煮など、準備委員会のメンバーが考えた10数品ほどのお総菜があつという間にできあがりました。

その間にも、大阪・京都・滋賀の建築士会の方々が順次お越しくださって、それぞれの住宅の中は多くの人で賑わい、かまどの火の熱さも手伝ってか、11月半ばにしてみなさん汗を流しながらの調理となりました。



今回使われた食材にも特別なこだわりがあり、ほとんどの材料は野菜から調味料までが国産品であり、さらに新米「ひとめぼれ」をはじめとする野菜の多くが奈良県産で、女性委員会員さんが手作りをして

きてくださったお味噌や自家製こんにゃく、お漬物・・・と本当に盛りだくさんな内容でした。



お天気がとてもよかったこともあり、庭園に広いダイニングコーナーが設けられ、出来上がって大皿に盛られたお総菜が次々に運ばれていき、テーブルの上に乗りにくいほどのたくさんの料理が並びました。快晴のもとでいただくランチはまた格別で、ほとんどのお料理がみなさんのお腹に収まり、美味しく楽しい秋の一日となりました。



☆参加した方々がコメントを寄せてくださいました

★とりあえず鯖の味噌煮が美味しく出来て良かった。皆さん完食でした。へっついさん、楽しかったです。  
武市啓子

★どうなるんだろうと思いつつ当日を迎え、基本流せない(米のとぎ汁程度はOK)のつもりで準備して良かったです。  
準備段階での鯖の味噌煮の妄想と、現実とは全く違っていました！おいしかったです！炊き込みご飯ものっぺもなますもその他たくさんのおかずも。その他スイーツも盛りだくさんで、満腹でした。  
ただ、味噌煮の煮汁がものすごく重たいゴミとなりました。お持ち帰りして下さった方ありがとうございます。今回つくづく、都市下水道のありがたさが身に染みました。  
江木博子

★秋晴れ！ふかし芋と湯沸しの担当でしたが、当日HELPの小林様にほとんど作業をしていただき大変お世話になりました。もう少しへっついさんの火のご機嫌を眺めていたかったけど、どの料理も失敗作なんて一つもなくすごく美味しかった。みなさん凄い！驚きました。  
前田晴子

★買出しに行った時のお野菜の美味しそうな事、荷物が多くなるので、我が家の分を我慢するのが大変でした。イベントの度にいつも思うことですが、女性委員会の皆様の引き出しの多いこと(物心ともに)と、瞬発力はすごい。お疲れさまでございました。  
山本規子

★“新しい思い出に乾杯”  
奈良県建築士会女性委員会は、“やる時は、やる”ですね。私は茶粥を始めて作りました。これからは泊まり客の朝食は茶粥と決めました。しかし、来客近建女の皆様にかつての同朋の消息を聞いても返事が少なく、過ぎ行く時代を想うこともありました。実行委員をはじめスタッフの皆様、素晴らしい思い出をありがとうございました。  
岡田伸子

★参加者の皆さんに楽しんでいただいたことと、大きな火傷も切り傷もなく、ぼやも出さず、無事に終わって、何よりよかった！良かった！本当にお疲れ様でした。そしてありがとうございました。へっついさんでの調理も失敗することなく事前の心配は嘘のようにおいしかったし、大好評でした。さすが老いも若きもいざとなれば実力発揮の頼れる方々です。「へっついさんを知らん人が増えたけど、へっついさんでご飯炊きたいな～」の一言で始まったこのイベント、場所が決まってからは、あれよあれよで終わってしまいました。イベント委員長になったけど、これとって何かしたわけでもなく、おいしいお昼ご飯をいただいただけですが、ごちそうさまでした。そして、民俗博物館の方々と事前と事後だけ手伝っていただいた方々、すっかりお世話になり、感謝で一杯です。次回、女性委員会設立30周年は、どんなイベントになるか楽しみです。 本保万貴子

★「へっついさん」で大和の食事を作ろうに参加して 私（杉田）鯖の味噌煮は「カンヅメ」しか思い浮かばず・・・、私（大阪在住）にとって、鯖は醤油味が身近な味です、某テレビ番組の「ケンミン・・・」でも大阪は醤油味と紹介されていました。当日は「まなの煮浸し」と「白米」の担当となりバタバタの中、何とか無事に出来上がりほっとしました、鍋にいっぱい「まなの煮浸し」我ながらビックリ！（少し多すぎたかなあ・・・）

「茶粥」美味しくてお変わりもしてしまいました、たっぷり頂いてしまいました。（ご馳走様でした。）  
「鯖の味噌煮」武市さんの作っておられるのを頼もしく見ていたのに、気が付くと食べ忘れていました、出来上がりも拝見せず非常に残念！  
でも大変貴重な体験ができ楽しいイベントでした。  
有難うございました。 杉田数代

★会場の洗い場、へっついさんでの調理・・・ 始めてづくし予行練習なしのぶっつけ本番に、汗をかき走りまわり知恵を出し合い悪戦苦闘・・・ お陰様で、予定時間にはテーブルに乗りきらないほど

沢山のご馳走が出来上がっていました。すごい！大成功！ ご協力頂きました全ての方々に感謝感謝。本当に本当にありがとうございました。

宮崎眞友美

★かまどでご飯をたくのは五感をフル回転しないとおいしいご飯は炊けないのを実感した。久しぶりに一生懸命になれたし、若い人達の仲間に入れてもらえ、楽しかった。 西尾広江

★当日は、天気にも恵まれ屋外会場の設営、慣れない「へっついさん」での調理も順調に進み、近建女の皆様・士会員の皆様の、「美味しかったね」「重文を使わせて貰えたのは、さすがに奈良県女さんやなあ」と喜んで頂きました。上田副会長のサプライズもあり皆さんの心配りと、パワーに楽しい一日でした。 安田千鶴代

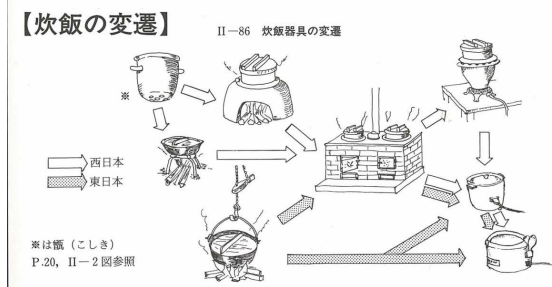
★当日、「へっついさん」なるもので、食事を作るところを初めて見る私には、何もかもが新鮮でした。カメラを担当させて頂いたので、一生懸命「へっついさん」と格闘されている皆さんに敬服しながらも、今回の2か所の「へっついさん」の持つ空気感の違いを肌で感じる事ができ、面白かったです。本当に皆さん、お疲れ様でした。そして、ご馳走さまでした。 相河真弓

★まずは成りから（姿かたち）行こうと、もんぺ割烹着を想定したものの断念。今風に（？）バンダナ巻いて。で、自分は何をしていたのかと言うと定かではなく、味見もさせてもらえず、なつかしい「はったいこ入り」の「おかいさん」もいただけず、白いご飯とマツタケ入りのきのこご飯を少し。写真を撮ってたら、もう何もなかった・・・でも皆でっかいケーキで誕生日を祝ってくださったこと、ほんとにありがとう！ 上田壽子

（担当 文書班 上田・相河・中辻）

## 日本の台所における変遷

### へっついさんからシステムキッチンへ



宮崎玲子「世界の台所博物館」 柏書房, 1988, p41

### 明治中期以前

#### ■ 囲炉裏と竈(かまど)

##### <関東～東日本>

北の囲炉裏 一板間に位置する一

気温の低い地域での稲作が可能になったのは最近のことで、雑穀の米粥や麺類を常食として、囲炉裏に吊り下げた鍋で煮ていた。

囲炉裏は煮炊きだけでなく、団らん・休息の場でもあり、冬場の暖を取る場であった。

##### <西日本>

南の竈 一土間に位置する一

甑(こしき)で蒸した強米(こわい)が主であったが、江戸時代に現在と同じ炊干法(粥の水分が煮上がった際、残らない方法)になった。

炊干法は鍋のほとんどを火の中に入れて包み込むかまどが便利である。

II-34 たくさん並んだかまど 10個のかまどが並び、お歯黒用のくぼみまであった (奈良県生駒郡安堵村, 中家・重文)



宮崎玲子「世界の台所博物館」 柏書房, 1988, p28

## 1900～明治後半・大正

#### ■ 台所は急に変わり始める

行政側の願望: 戦勝していた日本が世界に伍してゆくために民衆の生活をより近代化へ

産業側の願望: ガス産業、電力・電気産業

生活者の願望: 憧れ、機能観による期待

○1904～05 日露戦争

○1904 国産ガス器具使用開始

○1914～16 第一次世界大戦

○1916 台所電化

女中奉公の払拭→主婦が台所へ

女学校・洋食・家政学成立

○1905 婦人画報 ・1916 婦人公論

1917 主婦の友創刊

○1919 生活改善同盟会設立(政府外郭団体)

#### ■ 理想とする台所 <明治>

○「座式」(座って家事)がまだ見られる

○「座式」→「立式」を試みるが、なかなか普及せず。

(台所以外での起居動作や作業姿勢との関係性からと考えられる。)

#### ■ 下図 理想の台所

- ① 床の高低差がない
- ② 火場と水場の接近が図られている
- ③ 食事室との連絡がとられている

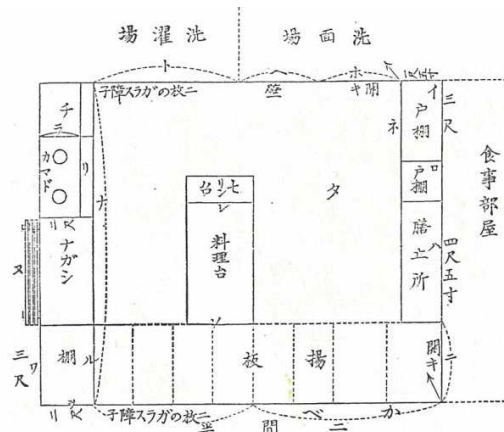


図-1 「理想の平民的台所」 1 等当選案

(『婦人之友』明治44年9月号)

日本生活学会編「台所の100年」ドメス出版, 1999, p167

## ■ 理想とする台所 <大正～昭和戦前期>

- 家事の合理化追求
- 「動作の経済」提案

- ① 「立式」作業
- ② 作業台の合理的配置
- ③ 空間利用(作業台下部等)
- ④ 面積の縮小

上記要素が相互の関係にある

### ○1922 鈴木式高等炊事台

初めてのキッチンセット登場

アメリカ式キッチンを参考

東京平和記念博覧会

文化村住宅展示

「主婦の友」・「住宅」掲載



日本生活学会編「台所の100年」ドメス出版、1999、p182

## 1926～昭和

### ○1926～34 同潤会アパート

### ○1941～45 太平洋戦争 敗戦

### ○1955 日本住宅公団設立

51c型 DK(ダイニングキッチン)誕生

食事の場と調理の場が一体化された部屋

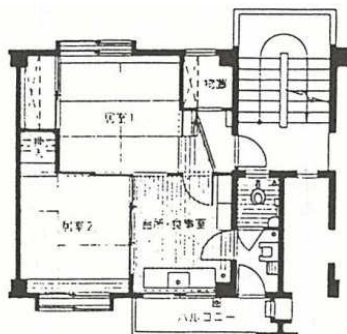
### ○1956 公団使用 ステンレス流し台

- ① 深絞りプレス法による一体成型
- ② 「科学的」研究による設計法の確立
- ③ 立動式起居様式の徹底普及
- ④ 最初のキッチンユニット、

米軍キャンプのDH流しタイプ踏襲

※DH(デペンデントハイツ):進駐軍将校らのハイツ

51C型の設計の過程(鈴木成文  
「住まいにおける計画と文化」よ  
り、日本生活学会「台所の100  
年」ドメス出版1999、p218



e (最終案・公営51C-N)

### ○1960年代 プレハブメーカー進出

セットキッチン(組み合わせ型・縦割り)花の時代

=流し台・調理台・ガス台を並べる

大手メーカー(厨房家具・セットキッチン産業)

### ○1965 台所道具出し並べキッチン

⇒ 台所道具仕舞い込みキッチン

⇒ 次世代 システムキッチン発展へ

### ○1967 日本住宅公団 LDK登場

生活の中心が「台所で食事」⇒「居間でくつろぐ」へ

### ○1969 電化台所・・・食器洗浄機・ミキサー・ポット等

### ○1970 厨房家具のインテリアデザインとのコーディネーション

### ○1973 「システムキッチン」ネーミング登場

システムキッチン・・・西ドイツのキッチンセット・

ビルトインキッチンの製造システムとデザイン導入

① 甲板が一枚板 建物内法に合わせられる

機能部品組合せ自由

②流通・施工のシステム イージーオーダーで製作

## 昭和末～平成(1989～)

### ○1976 セットキッチン出荷台数ピーク

システムキッチン国産化によって本格普及

### ○1983 システムキッチン 10万セットに達する

= ひとつの市場が成立

### ○1991 バブルの崩壊 品質・価格の低下

### ○世紀末 マンションを中心とした出来合い台所・・・

～ W2400・作業台付流し+ガス台+オープンをセット

一方 多様化の時代へ

対面キッチン型・アイランドキッチン・ユニバーサル

デザインキッチン・土間型キッチン・・・etc

### ○これからのキッチン

使い手自身が自分の生活・暮らしを見つめ、本当に必要なものを見極める中で、そのスタイルを選ぶ。

(担当 文書班 相河)

## 私と建築

石黒 國子

建築士会には数年前に一度入会しておりましたが、一度脱会の後一級資格修得後 改めて入会させて頂きました。奈良平城京遷都1300年祭への女性委員会の出展も拝見しました。熱心な茶室研究に感銘いたしました。特に「光雲荘」の見学会の件は見学報告で知ることとなり、ぜひ訪れたい場所でしたので大変残念でした。今後は 活発な女性委員会の活動に 時間の許す限り参加したいと思っておりますので よろしくお祈りします。

さて、「時間の許す限り」と言えば、日頃から自己向上の為というよりも趣味に近い形で建築巡礼ならぬ建物探訪をしております。奈良県や大阪府等の近場から、時には湯治を兼ねての宿泊旅行までプラプラと出掛けております。もっとも、私の薄識の中での情報に基づいていますので 皆さんよくご存じの所ばかりですが…。

最初にご紹介するのは 今は無き薬師寺東塔の雄姿です。建築構造上のためとは言え実に惜しいです。西塔よりも東塔のほうが好きな方が多いのではないのでしょうか？ この落ち着いたある色調が見られるのはいったいどれ程先のこととなるのでしょうか。



次の写真は一昨年の秋に行われた瀬戸内国際芸術祭でありにも有名になりすぎてしまった直島の中にある町立直島小学校です。アートの島に似つかわしいレトロモダンな雰囲気仕上がりになっています。直島の公共施設を一手に引き受けて設計した石井和

紘氏の設計です。

私はこの島が大の気に入りで まだ訪れる人もさほど多くなかった頃から数えると8回ほどは訪問しているでしょうか。



最後にご紹介するのは、鳥取県の三仏寺谷に投げ入れ堂と呼ばれている崖の中に建築されたお堂です。一度どうしても堂内に入りたいのですがかなりの倍率の抽選とのこと…。当日小一時間ほど道なき道を登りつめてこのお堂を拝めた時には 本当に感動しました。まさしく投げ入れたに違いありません。



これからもまだまだ、どんどん出掛けて行きたいと思っておりますので 女性委員会の諸先輩の方々、ご一緒させてくださいね。

最後になりましたが、昨年起きた大災害においては 何十年・何百年と生き続けた建築物も 自然災害の前には全く歯が立たないということを改めて教えられた年でもありました。

建築士として自分に何かできる事があるのだろうかと考えつづけている日々です。

## 私と建築

私の会社の仕事をとりとめもなく・・・・・・・・

(株)アトリエイツー

江木博子

私は、設計事務所でもゼネコンでもなく、直接的に建築ではない、建設コンサルタント（造園）という会社を夫婦でやっております。建築というよりは、むしろ土木に近くて構造物+樹木の設計もするといつかんじです。

[整備前：古く使われていない木製遊具や砂場]



最近、（独）都市再生機構（UR：昔の日本住宅公団）の既設賃貸団地の屋外環境整備の設計が多いです。平たく言えば、古い団地の屋外のリフォームです。団地の経年劣化による、舗装や排水の改修、遊具の安全基準に基づいた撤去・改修、通路のバリアフリー化（段差解消やスロープでのアクセス確保など）、駐車場や自転車置場の整備、屋外空間に求められる機能の変化に対応した平面計画の設計などをしております。

[整備後：残す樹木は残し、遊具を一新]



ところで5階建の賃貸団地は、住棟自体がヨーカンで、特徴がなく調査に入った当初は住棟を間違えてしまうこともままあります。これは住棟だけの問題ではなく屋外空間がパターン化しているので仕方がないともいえます。そのなかで、当初の竣工時には、絶対配植してなかったであろう樹木がよく見られます。私たちは自主花壇と呼んでいます。このグリラ植栽のおかげで、自分がどこにいるのか区別できたりして複雑です。

思い起こせば、30年位前は計画平面図は、500分の1でした。現在は、300分の1か200分の1が標準で作業しております。その分、植栽も細かく設計しております。統一感を考えながらも同じパターンで空間を埋めてしまわないようにしております。

昨年は、大阪市内の分譲マンション内の、公園というにはあまりに狭い、ポケットパークというか、公開緑地の改修設計をしました。

長い年月が経ち樹木も緑が豊かというより、うっそうとした暗い閉鎖的な印象を与えていました。そのスペースは、ほとんど住人達から忘れられ、自転車放置所だったり、世話に困った鉢物の植え替え場所だったりしていました。入居当初は、子供+お母さん達の利用もあったそうですが、利用していた居住者自身さえも、顧みなくなっていました。

使われない砂場を撤去し、うっそうとした生垣や中低木を伐採し、居住者アンケートに基づいた樹木を新たに配植しました。

当初の入居時はあてがい扶持の空間でしたが、居住者の意向を取り入れた整備をすることにより、居住者に利用して-楽しんでいただける場所になりそうです。工事が終わった-きれいになった良かった-で終わらず、新たな植栽への散水や花壇などの世話をするグループもできたようです。今までは、管理は管理会社にすべてまかせっきりのような状態だったのが、生まれ変わったスペースの管理を居住者自らが体を動かして管理することにより新たなつながりが生まれつつあるようです。そんな話が直接聞けるのは、民間の仕事ならではのうれしかったです。（仕事としては赤字ですが・・）

## 今後の事業予定

平成 24 年

- 2月4日(土) 奈良市ならまちセンター  
既存木造住宅の耐震診断・補強設計講習会  
＜限界耐力計算＞
- 2月5日(日)  
女性委員会会議・新年懇親会
- 2月17日(金) 18日(土)  
全国女性建築士連絡協議会「京都大会」
- 2月24日(金) 奈良県産業会館  
第4回一級・二級・木造建築士定期講習
- 2月25日(土)  
奈良県地域文化財建造物専門家育成講習会
- 3月3日(土) 4日(日)  
奈良県地域文化財建造物専門家育成講習会  
(兵庫県建築士会ヘリテージ委員会  
まちづくり委員会合同事業 in 龍野)
- 3月6日(火)  
正副会長会
- 3月中旬  
女性委員会見学(日時 行き先 未定)
- 3月16日(金)  
理事会
- 3月21日(水) 文化会館  
既存木造住宅耐震診断講習会
- 3月28日(水)  
なら・すまいアップセンター住宅無料相談室

## ～ 編集後記 ～

今回のフープは 建築士会女性委員会設立 20周年記念イベント 「へっついさん」で大和の食事を作ろうの特集が とても興味深かったのではないのでしょうか・・・

私事ながら イベント直前に不注意にも骨折をしてしまい当日参加できずご迷惑をかけてしまったのですが記事を読んで 楽しそうな 美味しそうな様子がよくわかりとても残念でした。それだけではなく 重要文化財にも指定されている建物で大和にもこだわり 大成功させるなんて本当にすごいと思いました。

また 年末年始のご多忙の中 原稿にご協力いただき コメントを寄せていただいた方々「私と建築」に寄稿していただいた石黒様 江木様 有り難うございました。皆様今後共 フープにご協力宜しくお願い致します。

2012年新しい年が始まり2ヶ月あまりを過ぎようとしています。昨年は大変な災害が日本を襲い人としても建築士としても 生き方を考え直した年でした。今できることは何なのか 後悔はないか 時々自分に確認していきたいと思えます。今年も宜しくお願いいいたします。

(平島朋子)

